

バンドー化学（株） 加古川工場

環境保全対策実施報告書

1. 環境保全対策実施状況（平成20年度）

(1) 大気汚染防止対策

推進の内容	実施の成果
<p>①ボイラ燃焼の効率化および蒸気ロスの低減に努めました。</p> <p>ア. ガス貫流ボイラの台数制御による実負荷に対応した台数制御の実施。</p> <p>イ. ガス貫流ボイラの定期性能検査受けによる性能維持・管理の実施。</p> <p>ウ. 設備点検による蒸気漏れ箇所の早期修復の実施。</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排ガスを協定値以下のレベルで維持することができました。 ・ボイラについては今年度も安定した運転ができました。
<p>②糊引き乾燥施設にVOC処理施設の導入を計画いたしました。</p> <p>（トルエン、酢酸エチル等の排出量の削減）</p>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年3月にVOC処理施設の導入を完了いたしました。 ・4月度より運転開始し効果を確認中。 <p>目標値：平成12年度排出量比△44%</p>

(2) 水質汚濁防止対策

推進の内容	実施の成果
<p>①対象設備の点検と管理に努めました。</p> <p>ア. ボイラブロー水 pH中和装置の点検・管理を実施</p> <p>イ. 油水分離機の点検、管理による油分流出防止の実施</p> <p>ウ. 基幹職の交代制による週一回の環境パトロールの実施と改善</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場排水を協定値以下のレベルで維持・管理ができました。 ・油分流出防止につきましては、事故緊急事態を想定した教育訓練を実施いたしました。
<p>②設備故障に備えた、予備品の整備を実施いたしました。</p> <p>ア. pH中和装置の予備品整備</p>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・万一の設備故障におけるリスクの軽減ができました。

(3) 騒音、振動防止対策

推進の内容	実施の成果
<p>①定期騒音測定と環境パトロールの実施</p>	<p>①敷地境界の騒音を基準値以下のレベルで維持できました。</p>

(4) 悪臭防止対策

推進の内容	実施の成果
①対象設備の点検と管理に努めました。 ア.対象設備の維持管理 イ.定期悪臭測定の実施(1回/月)	①敷地境界の悪臭等を、基準値以下のレベルで維持できました。

(5) 産業廃棄物対策

推進の内容	実施の成果
①総廃棄物の計画的削減(△10%)を推進すると共に、ゼロエミッション(埋立率1%以下)を達成すべく、廃棄物のリサイクル化を推進しました。	① ・総廃棄物処理量は前年比マイナス1.1%。 残念ながら目標のマイナス10%には到達できませんでした。 ・総廃棄物発生量に対する埋立率は0.43%になり、継続してゼロエミッション(埋立率1%以下)を達成できました。

(6) 緑化対策

推進の内容	実施の成果
①工場内の緑化推進に努めました。 ア.緑地帯の樹木の剪定、雑草の除去等手入れの実施	①専任作業員による日々の手入れを計画し、緑化整備を強化実施できました。

(7) 地域連絡会

推進の内容	実施の成果
①工場周辺5地区の代表者の方にモニターになっていただき、アンケート、工場見学等、環境モニター制度を継続実施しました。	①環境モニター制度については、重大なご指摘もなく、特には問題ありませんでした。 ・モニターアンケート:4回/年 ・モニター会議:1回/年
②トライやるウィークで平岡中学校より3名の受入れを実施しました。 インターシップで東播工業高校より1名の受入れを実施しました。	②工場内の軽作業を体験していただき、工場の業務について理解を深めていただきました。

(8) その他

推進の内容	実施の成果
①環境マネジメントシステム(ISO14001)の運用を通じて、改善活動を継続して実施いたしました。	ISO14001を更新維持できました。今後も継続的に、環境改善に取り組んで参ります。

2. 協定値と実績値の比較

(1) 大気関係

(実績値：最大値または年間総排出量)

項 目		協 定 値	実 績 値
窒素酸化物排出量	(Nm ³ /H)	1.8	0.4
	(t/年)	16.0	4.5

(2) 水質関係

①汚濁負荷量

項 目		協 定 値	実 績 値
COD (kg/日)	通常	19	1
	最大	19	1
BOD (kg/日)	通常	36	2
	最大	36	4
S S (kg/日)	通常	57	1
	最大	57	3
ノルマルヘキサン抽出物質 (kg/日)	通常	15	1
	最大	15	1

② 許容限度

項	目	協 定 値	実績値
P H	最小～最大	5.8-8.6	6.2-8.6
C O D (mg/L)	日間平均	6	1.1
	最 大	9	1.4
B O D (mg/L)	日間平均	10	2.6
	最 大	15	5.8
S S (mg/L)	日間平均	16	1
	最 大	35	4
ノルマルヘキサン抽出物質 (mg/L)	日間平均	4	1.0
	最 大	5	1.3

3. 環境保全活動

(1) 平成21年度基本方針

項目	内容
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本理念 <p>バンダー化学は、地球環境の保全が人類の最重要課題の一つと認識し、ゴム・プラスチック製品およびそれらを含むシステム製品を中心とした当社の事業活動、製品およびサービスのすべての面で、全員の創意、工夫と行動力を結集し、環境保全と汚染の予防に積極的に取り組む。</p> ● 行動指針 <ul style="list-style-type: none"> ① 環境保護を配慮した製品開発を進める。 <ul style="list-style-type: none"> 1-1. 環境負荷の小さい製品・システムの開発 1-2. 環境負荷の小さい材料の使用 1-3. 省エネルギーおよびリサイクル性の配慮 ② 環境に関する法規制および自治体・業界等の当社が同意した取り決め事項を遵守するとともに、社会や地域における環境保全と汚染の予防に努める。 ③ 省資源、省エネルギー、リサイクルおよび廃棄物の削減などの活動を推進する。 ④ 環境方針は社内外に公表し、全従業員および関係会社・協力会社に周知させるとともに、環境保全と汚染の予防に関する教育・訓練を実施し、全員参加のもとに環境保全活動を推進する。 ⑤ 上記項目を確実に実施するために、環境目的・目標を合理的に設定し、全員の創意、工夫と行動力で取り組み、定期的な環境監査と見直しによって環境保全と汚染の予防を図る継続的改善活動を展開する。
組織体制	<p>バンダー化学(株) 加古川工場</p> <pre> graph TD A[環境保全責任者 (公害防止統括者)] --- B[環境委員会事務局] A --- C[職場環境対策委員会] C --- D[公害防止管理者] C --- E[産廃管理者] C --- F[各部環境管理 責任者] C --- G[緑化管理責任者] D --- H[大気管理者] D --- I[水質管理者] D --- J[騒音管理者] D --- K[振動管理者] </pre>

(2) 平成21年度環境保全活動計画

環境保全活動	目標	目標達成のための計画、方策
1. 環境対応製品の開発を推進する	1. 省エネと環境をキーワードにした製品リニューアルを実施する	1. CO2削減を全面に打ち出したコンパイルの製品体系のリニューアルを推進する。 2. 開発の各ステップで製品アセスメントを実施し環境への影響を考慮する。
2. 資源循環型社会の形成に貢献するため産業廃棄物発生を抑制する	1. 生産高当りの廃棄物処理委託量を2008年度比10%以上削減する	1. ロス削減専任チーム活動による、設計ロス低減を推進する。
	2. ゼロエミッションの継続	1. 一般不燃ゴミの分別リサイクルによる埋立率を削減する。
3. 地球温暖化物質(CO2)排出量を削減する	1. 生産高あたりのCO2排出量を1%以上削減する	1. 生産高の増減によるシフトの最適化によるエネルギー使用量を削減する。 2. 設備の効率的稼働を図りエネルギー消費を削減する。 3. 空調温度を適正に設定しエネルギー消費を削減する。 (室温 夏:28℃ 冬:18℃) (空調機新設、更新の場合は、最も省エネ型を選定すること) 4. 工場内エア洩れの撲滅によりコンプレッサー負荷を軽減、ムダなエネルギーの消費を削減する。

環境保全活動	目標	目標達成のための計画、方策
4. 環境汚染化学物質の削減に努める	1. VOC排出ガスを平成12年度比62%以上削減する	1. 糊引き乾燥施設のVOC処理装置の実用稼働から効果を検証する。 2. 現場保管の溶剤の揮発防止策を推進する。 ・密閉性の良い容器への変更、使用时以外の蓋など保管方法の教育
	2. PRTR法に対応した有害物質の管理を継続する （当社指定原材料のうち、削減対象物質の削減目標を設定し、使用量を削減する）	1. PRTR法の届出を確実に実施し、移動量の管理、記録を抜けなく実行する。 （2008年度取扱量1t以上の物質） 2. 廃棄物置場の管理方法の徹底 3. 塩素系溶剤、洗浄剤の代替化を推進する（ジクロロメタン、テトラクロエチレン、トリクロエチレン）
5. 地域社会との協調と社会貢献の推進を図る	1. 周辺住民からの苦情：ゼロ	1. 地域住民による環境モニター制度を継続実施する。 ・住民アンケートによる情報の収集 ・環境モニター会議による地域住民との相互コミュニケーション
	2. 基準値違反：ゼロ 事故緊急事態：ゼロ	1. 環境パトロール、環境測定を継続推進する。 ・基幹職環境パトロールによる違反事故の未然防止活動の推進 ・環境負荷の高いタイミングでの定期環境測定の継続実施 2. EMS活動を継続推進する。

騒音測定地点(地図)

